

しめのひとこと

志免町のいろんなひと、いろんなことをお伝えします！

23

子どもたちの
ために

ミシンボランティア

家庭科応援隊

あつだ

左) 堤さん 中) 石松さん 右) 満田さん

7～8年前から志免東小学校の5・6年生の家庭科の授業に「ミシンボランティア」としてミシンを使う時の補助を続ける。令和3年には、志免西小学校からも家庭科のボランティア活動のお願いがあり、堤さんから西小校区に住んでいる方々に声を掛けて、集まった人たちで「家庭科応援隊」として活動を始め、3年目になる。



志免東小で始まった ミシンボランティアの活動

活動の始まりは、7～8年前に志免東小学校の校長先生から「5.6年生の家庭科の授業でミシンの補助をお願いできませんか」と、連絡があったことでした。先生は、子どもたちが家庭科の授業に安心してミシンを使えるように、地域のボランティアの方に見守って欲しいと考えておられたようです。見守ることならできかなと思ひ、すぐに子どもたちのために動こうと思ひました。

まず、もともと知り合いの中にミシンの上手な方たちを知っていましたから、「志免東小からのお願いが来ているよ」と声をかけました。志免町在住の12～3人を集めて活動を始めました。ミシンを使って5年生はエプロン、6年生は修学旅行に必要なナップサックを作ります。各作業テーブルに担当のミシンボランティアを配置し、時間内にすべての子どもたちが作り終わるように見守りや作業補助をしました。そこから毎年、コロナ禍になるまではミシンの補助を行うボランティア活動をしていました。



今回は志免西小からの依頼 戸惑いと協働体制作り

令和3年の春ごろに、志免西小のコミュニティ・スクール説明会に呼ばれて参加しました。すぐに教頭先生から「来週から、家庭科の授業に家庭科応援隊として入って欲しい」と依頼がありました。先生からの工程表を見たら、玉結びや運針などから家庭科の授業でしっかりと教える内容でした。東小のミシンボランティアと異なり、授業に関わるのは初めてです。また、児童数が多いため、ボランティアも多く集める必要がありました。人数が足りず、町の更生保護女性会の方にも声をかけました。

活動をしていくうちに、メンバーから立ちっぱなしや中腰で2時間ずっと活動するのは、体力的な負担が大きいという話が出ました。学校側も初めてのことで手探りだったと思いますが、メンバーからの声を学校に届けて話し合い、令和4年からはミシンボランティアとしてミシンの補助活動をしています。今では30名以上のメンバーが参加してくれて、グループ毎にクラスに入る体制ができました。



志免西小学校の学校通信に掲載されました！(R4.10月号)

地域の子もたちのために シニアの生きがいとうれしい変化

堤さん)初めに西小から声がかかった時、西小校区に住んでいる知り合いにまずは声をかけようと思いました。真っ先に頭に浮かんだのは石松さんと満田さんでした。普段から、いろんな活動をする際に声をかけ合っていますから。

石松さん)堤さんから声がかかったからやってみようと思い立ちました。私はさらに近所の知り合いに「孫たちの活動を見守れるよ」「頭の活性化になるよ」と軽く誘いました。考えてみたら、子育ても終わり、時間が余っているときに、地域の子もたちの為に何かできるのはうれしいことだと思います。仕上がった時の子どもたちの喜ぶ顔がとても良いです。実際に、修学旅行で柳川に来ていた西小の子どもたちがナップサックを使っている姿を偶然見かけて、本当にうれしい気持ちになりました。

満田さん)私も近所のお友だちに声をかけて参加者を募りました。いつものご挨拶や、おしゃべりをする関係性のある人に活動の話をしました。

子どもたちが顔を覚えてくれて、道で出会ったときに「この前作ったナップサック！」と、声をかけてくれる。これこそ、地域のつながりがうまれる校区コミュニティの良さではないかと感じます。

子どもたちは、みな素直で良い子ばかり。家にいるより、元気をもらっている。「先生、先生」と言われるとうれしいですね。

石松さん)「私にできるかと不安だったけれど楽しかった。来年もしたい」と参加した方々が言います。子どもたちから元気をもらっています。

堤さん)ボランティアに入る授業は、子どもたちの

成績とは関係ないですと先生に言われています。その一言のおかげで、だれでも関われる活動になっていると思います。それでも授業の補助ですから、先生らしく、しっかり見守りたいと思っています。

満田さん)考えてみたら、地域のボランティアを授業に受け入れてくれる学校も素晴らしいと思います。コロナ禍に始まった活動で、参加したボランティアの皆さんも喜び、先生も助かる。子どもたちも地域に知り合いができる。そんな好循環がずっと続いていくといいですね。

ボランティア活動をするときに 大事に思うことは

満田さん)役に立っていると実感しながら活動をするのが大事です。自分が当事者だったらと考え、私の母からの教えですが「何かしてもらったら、ありがとうと礼を言う。できる時には他のだれか困っている人にその礼を返す」という気持ちでいつも活動しています。ミシンボランティア以外にも、自分がやりたいと思ったらすぐ行動していますよ。

石松さん)いつも、子どもたちに思いを寄せています。孫が喜ぶことは子どもたちみんなが喜ぶと考えています。お礼のお手紙をもらってとてもうれしかった。「私でも役に立てる」という実感が小さな生きがいになっています。年齢は関係なく、時間ができた方は、ボランティアをしてみませんか。活躍の場はすぐそばにあります。活動を通じて、大人の知り合いができることも大切にしたいですね。

全員より)「家庭科応援隊」の活動は、町のすべての小学校でできると良いなと思っています。地域の大人が学校に関わるコミュニティ・スクール活動に、とても期待しています。

取材を終えて

地域の大人と子どもたちが顔見知りになると、互いに安心して助け合う地域づくりにつながります。そのためには、地域の大人が主体的に関わる活動が必要です。学校活動の広がりが期待されます。

